

だれもが安心してよりそえる街へ

こども食堂でつながる笑顔

「泉区子どもの居場所づくりネットワーク会議」

【日時】 令和 7 年 1 月 21 日(火) 14:00~15:30

【場所】 仙台市将監市民センター

【参加者】 泉区の子ども食堂や学習支援等の子どもの居場所づくり活動をしている団体、
社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、保健福祉センター家庭健康課等



全国に急激に広まった子ども食堂。NPO 法人、企業、保育園、ボランティア団体、地区社会福祉協議会などが運営し、民生委員児童委員協議会、町内会が協力しています。仙台市社会福祉協議会が把握しているだけで 72 団体、泉区だけでも 12 カ所で開催されています。

これまでは「子ども食堂」=「貧困」というイメージを持たれていましたが、現在では子どもから高齢者まで誰でも無料、または低額で安心して食事ができる場所として変わってきているようです。

子ども食堂によっては会食、配食の他に学習支援や親子クッキング、スポーツ、音楽、季節の行事を行うなど遊びや体験、活動の場として、また地域づくり、つながり、世代間交流の場として参加者は楽しい時間を過ごしています。

「子ども食堂」だから隣の見知らぬ人とも話せる。毎回、顔を合わせることで子どもの少しの変化に気づき手を差し伸べることができる。お互いを思いやり、優しい気持ちが育まれる。

「子ども食堂」はお腹も心も満たされて、誰もが笑顔になれる温かい場所です。みんなの笑顔のために、わたしたちができることはいろいろあるはず。もっともっと優しさの輪、笑顔の輪が広がっていきそうです。

ロゴマークができました



子どもたちの見守りやちょっとしたお手伝いの時に、こちらのロゴマークを付けた名札を着用して活動しているのが、泉中央地区社会福祉協議会です。

みんなで寄り添い笑顔で暮らすというテーマを表現した素敵な図案です。見かけたらぜひお声をかけてみてください。

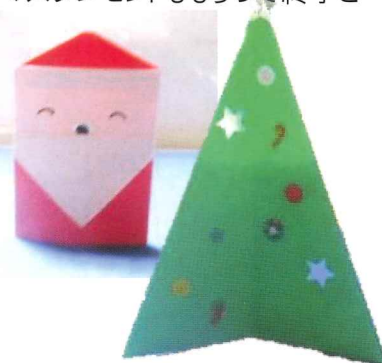


ふれあいサロン～クリスマス会～

市名坂町内会 櫻井 司眞子

市名坂町内会では12月6日に市民センターで「クリスマス会」を行いました。あやとり、お手玉、折り紙などの昔懐かしい遊びを、各々好きなコーナーを回って楽しみました。時節柄クリスマスツリーやサンタクロース、コマなどの折り紙に興味を持っていただきました。同じ折り紙で折っているのですが、それぞれに雰囲気の違う可愛いサンタさんが出来上がりました。折り紙は教えてもらったり教えたり、「こうかな？」と考えたり、「できた！」と喜びもあり、脳トレにも良いそうですよ。

楽しく頭と指を使った後は、みんなで美味しいお弁当とケーキをいただきました。クリスマスプレゼントももらって終了となりました。いくつになってもプレゼントは嬉しいものですね！顔もほころんでいました。



笑って、歌って、脳トレしましょ！

泉中央第一町内会 宮崎 吉輝

「健康アップ教室2024」2回目、「山下圭の笑(ショー)タイム」の報告です。まずは、ギターの伴奏と歌詞のリードで、童謡や懐かしの歌謡曲を全員で合唱。楽しい雰囲気になってきました。

そこでクイズ「〇〇の歌詞の題名は？」。皆さん自信満々に「〇〇！」「ブー。△△でした！」

歌詞に引っ張られていたのです。題名や歌手の名前よりも、歌詞やメロディーの記憶の方が強く残るのだそう。また、そこを刺激することが脳の活性化、老化防止になるのだとか。



歌詞のリードに従って童謡の合唱です。ところが、歌詞のリードがなくなり、伴奏も変わっているような・・・？違った伴奏になっても続けて歌う人と、違う伴奏に気づいて歌を変える人も。頭が混乱してきました。聴覚と記憶力を最大限に働かせての合唱です。

仕上げは、簡単な童謡を歌いながら手足の運動を加えます。リズムに合わせて腕を伸ばしたり縮めたり、手を開いたり握ったり、脳も身体もポカポカと温くなりました。

■街の風～編集後記～

友愛町自治会 佐々木 光一

「突然、利き手の右手を骨折し普段の生活に支障が。着替えや入浴は左手だけで。両手を使えないもどかしさ。介護される思いがけない経験で健康の大切さを再認識した」との話を聞きました。事故はどこにでも転がっています。何よりも健康維持が大事ですね。



この広報紙は福祉振興助成金を利用しています